

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ~6日	2月 ~13日	2月 ~20日	2月 ~27日	3月 ~6日	3月 ~13日	3月 ~20日	3月 ~27日	4月 ~3日	4月 ~10日	4月 ~17日	4月 ~24日	5月 ~1日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	12	4	10	8	11	7	12	13	17	19	18	14 (15)	5
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	14	5	7	15	11	12	3	11	9	23	16	14	13
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	1	0	1	1	1	1	3	2	1	2	1	1	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	3	1	4	4	6	6	8	5	1	8	7	4	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	2	6	1	1	3	4	2	0	5	2	3	9	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	1	3	3	0	1	1	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第17週(4月25日~5月1日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3		2	1				
三類	0	発生なし	0							
四類	5	つつが虫病	1	1						
		日本紅斑熱	2			2				
		レジオネラ症	2	1			1			
五類	13	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2					1	1	
		水痘(入院例)	1				1			
		梅毒	10					9	1	
新型インフルエンザ 等感染症	6,047	新型コロナウイルス感染症	6,047	556	349	467	172	3,086	321	1,096

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第17週に3,086件の報告があり、多い状況が続いています。これまで大型連休後に感染の急拡大が繰り返していることに加えて、感染性がより高いBA.2系統への置き換えが全国で約9割まで進んでいると推定されており、注意が必要です。マスクの正しい着用、手洗い、換気、体調不良時の外出自粛など一人一人が対策を徹底することが大切です。

2 レジオネラ症

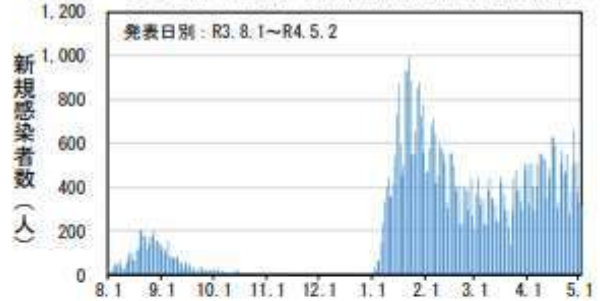
1件の報告があり、今年の累計は7件(昨年同時期7件)となりました。レジオネラ症は、河川や土壌など自然界に生息するレジオネラ属菌の吸入などによって感染し、肺炎などを発症します。

感染を予防するためには、不衛生な場所でのエアロゾル(細かい水のしぶき)の吸入を避けるとともに、感染源となる可能性のある設備(循環式浴槽、加湿器、冷却塔など)の衛生管理を適切に行い、レジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。

3 梅毒

9件の報告があり、今年の累計は86件となりました。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



レジオネラ症年間報告数の推移



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.52		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.12	
小児科	咽頭結膜熱	5	0.21	0.58		眼科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.30	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.25	2.25			急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	95	3.96	7.24	↘	基幹	流行性角結膜炎	-	-	0.83	
	水痘	-	-	0.27			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	32	1.33	0.78	→		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.17			マイコプラズマ肺炎	-	-	-	
	突発性発しん	9	0.38	0.36			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
ヘルパンギーナ	-	-	0.10		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.80			

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇄	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	1	7	60歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	5	80歳代
5	水痘(入院例に限る)	1	4	10歳代
5	梅毒	9	86	10歳代・1人、20歳代・1人、30歳代・3人、40歳代・3人、50歳代・1人